

菅原地区の現状

▶平成25年から令和4年までの10年間の人口と世帯数の推移

人口は減少しましたが、一方で世帯数は増加しており、単身世帯の増加、核家族化が進んでいると思われます。



子育て世代も必見!

第2回菅原地区意見交換会

子どもからお年寄りまでが
住みやすい地域にするために

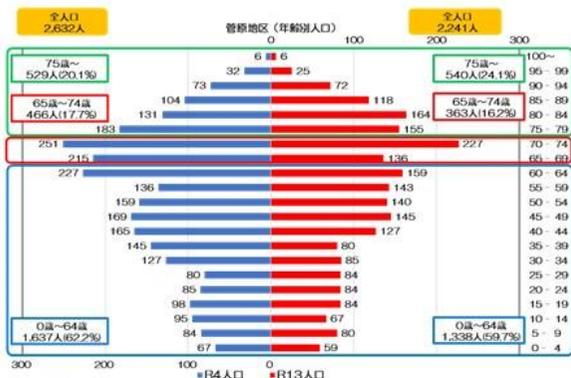
2023年12月9日(土) 13時30分～15時30分

菅原公民館 (大生郷町1960番地1)

対象 菅原地区にお住まいの方が関係のある方なら
どなたでもOK! (小中学生、高校生、大学生の参加もお待ちしております)

申込み QRコードからお申込みいただくか、問い合わせ先にご連絡ください(当日参加もOK!)

お申込みはこちらから↓



◀令和4年と令和13年の年齢別人口の比較 (推定)

75歳以上の割合が増加する一方で0歳～64歳、65歳～74歳の割合が減少し、さらに若い年齢層になるにつれて人口数が減少する予想となっており、少子高齢化が進むと推測されます。



渡辺 裕一氏 (武蔵野大学教授)

将来、少子高齢化・人口減少に移行していくと推測されますが、このことは悪いことではなく、社会や地域の状況がそのように変わっていくということです。それに伴って、地域で今まで出来ていたことが出来なくなったりと、地域活動も変わっていくので、皆さんで地域の今後を考えていきましょう。

第1回講演会・意見交換会の様子や参加者の感想



- ・すぐに解決はできないと思うが、少しずつやっていたらと思う。
- ・困りごとや改善点が多く出て、認識できてよかった。
- ・いろいろな年代の人の話が聞けて良かった。
- ・学校の授業でもやってもいいのではないかなと思った。 など

第1回意見交換会の参加者からの意見はこちら!

10代～80代まで
21名が参加!



第1回意見交換会の内容、資料はこちらから↓



アドバイザー



渡辺 裕一氏
(武蔵野大学人間科学部
社会福祉学科教授)

話し合いの内容

- ①第1回意見交換会の確認・意見の追加
(意見は内側に記載してあります)
- ②地域の関心ごとの順位付け
- ③関心ごとに対する取り組みしやすいことの順位付け

友達と一緒に参加しましょう!

お子様もOK!
おもちゃもあるわよ

無料よ!

第1回意見交換会の参加者からの意見はこちら!

主催 問い合わせ先

常総市 市民生活部 市民と共に考える課
TEL 0297-23-2111 (代表)

1. 「この地域で暮らすあなたにとって地域で起きているどのようなことに関心がありますか？」

1

- 近所づきあいが大変
- 地域の集まりが減った
- コロナで行事減少
- 田んぼを作っている人が減っている
- 田んぼ道が通れなくなった
- 家を管理する人がいなくなる
- 不審者情報の増加
- フクロウがいなくなった
- 大きな木が減った
- 太陽光発電の増加
- 学校に入る子が1人しかいない
- 子どもがいない
- 外で遊ぶ子供たちの減少
- 小学校の合併
- バス通学の開始
- 小学生の登下校の見守り、お迎えが大変そう
- 家族の人数が減っている
- 一人暮らしの家族が多い
- 家に閉じこもりテレビを見ている人が多い
- 高齢者の集まる場所



2

- 区長選出問題
- 子どもの人数が少ない
- スクールバス
- ゴミ問題
- ゴミの出し方がなっていない
- 孤立問題（一人暮らし）
- 野菜を採ったあとの道路が汚い
- 郵便局しかない
- 買い物が不便
- 近くにスーパーがなく、高齢世帯では買い物が大変
- 外来種（アライグマ）がいる
- 道路が狭い
- 高齢化
- 土手へのゴミ捨て（東仁連川）
- 知らない人から電話があつて怖い



3

- バス等のインフラがない
- 道路が狭く、救急車、消防車が入れず命を救えない
- 朝と晩の交通量が多く、危険なところがある
- 自治区の集まりのとき、意見が少ない
- 自治区の盛り上がりがない
- コミュニケーションが減った
- 近所付き合いが少ない（何かあったらSOSが出せない）
- 横のつながりが低くなりつつある
- 集落センターがあるので、みんなで利用していきたいが
- 高齢者がつながりを持つ場が少ない
- 人口減少
- 世帯数が減っている
- 地域の人たちがわからなくなった
- 道路側へゴミを落としていく
- 高齢で農家の減少
- 高齢者同士の家族が多く、将来への不安を感じる
- 買い物をするところがない
- 買い物難民（カスミの移動スーパーが来てくれている）
- 一人暮らしの方の声掛けをどうすればいいか
- 空き家が多い（死亡、施設入所）
- 若者の働く場が少ない
- 遊ぶ場所がない
- 学童がない
- 子どもが少ない
- 子どもが少なく、廃品回収が大変
- 通学するとき、歩きたいのに歩けなくなった
- 子どもが少ないため、地域での活動ができない（夏祭り、廃品回収）
- 自然が減っている



2. 「あなたが暮らしたいまちはどんなまちですか？」

1

- 買い物に困らない
- 地域で子どもを見守ることができるまち
- 高齢者を近所で助け合うまち
- 一人暮らしでも生きられるまち
- 若い世帯が住みやすい地域
- 遊べる場所が多いまち
- 安心・安全に外で遊べるまち
- 安全安心に暮らせるまち
- 騒音のないまち
- 車がなくても暮らせるまち
- 自然環境の豊かなまち
- 農業地帯で住むにはよいが、社会から離れていくのか？



2

- 若者が集まるまち
- 子どもやお年寄りにやさしいまち
- 老人世帯への交通の便が無料のコミュニティバスがあればいい
- 循環する医療
- 街灯を増やす
- 蓄電池の整備
- 給油所が多いまち
- 災害が起きたときにすぐに対応できるまち
- 大雨に対して、河川の強化
- スーパーがあるといい
- 移動スーパーの拡大
- 大生郷工業団地の発達
- クリーニング屋が近くにほしい
- ATMがほしい
- のどかな菅原
- 仁連川がきれいなまち



3

- 若い人に魅力が感じられるまち
- 若者が住みやすいまち
- 若者の働く場がある
- 人が増えてにぎやかなまち
- 結婚相手が見つかる場を設ける
- 子どもの遊び場所（公園等）
- 小学校のそばに学童がある
- 高齢者の行けるデイサービス、ケアを多くする
- 高齢者が安心して暮らせるまち
- 介護している方、これからされる方へ情報の発信をしていきたい
- 高齢者への税率が低くなるまち
- 運動する場所がないので、集まって出かけていきたい
- センターの利用で趣味のサークルを
- 地域の人たちと触れ合える場所や行事を増やしたい
- 自然を活かしたまち
- 生態系の豊かな自然環境
- 自分で野菜作りしていて楽しいので広めていきたい
- 農家の法人化（中型）
- 自然災害に対応できる河川づくり
- 空き家を少なくする
- 遊具がたくさんある
- スーパー等が充実した住みやすいまち
- コインランドリー、商店街があるまち
- 交通の便が良いまちづくり
- デジタル社会に対応したインフラ整備（家でできるリモートワーク）
- 道路整備をして、救急車と消防車が入れるようにしてほしい

